

令和元年 第3回 男鹿市教育委員会会議録

1. 日 時 令和元年10月8日(火) 午前10時00分～
2. 場 所 男鹿市役所 3階 第1会議室
3. 出席者 教育長 栗森 貢  
委 員 安田 一彦  
委 員 吉田 貴美子  
委 員 小玉 亜紀子  
委 員 三浦 良忠
4. 出席職員 教育次長兼生涯学習室長 目黒 雪子  
学校教育課長 加藤 和彦  
学校教育課主幹 加賀谷 正人  
学校教育課主幹 鎌田 真樹子  
生涯学習室主幹 佐藤 延明
5. 案 件  
議案第13号  
男鹿市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について
6. 報 告  
(1) 令和元年9月市議会定例会の一般質問等について  
(2) 男鹿市小中学校の在り方を考える協議会について  
(3) 男鹿市小・中学校のいじめの認知状況について
7. その他
8. 閉 会

【議事 午前10時00分開会】

○教育長

ただいまから、令和元年第3回教育委員会会議を開会いたします。

本日の議題につきましては、案件が1件、報告が3件となっております。

令和元年第2回の会議録の承認については、委員の皆様からご署名いただきましたので承認されました。

それでは案件に入ります。初めに、議案第13号 男鹿市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則についてであります。事務局から説明願います。

○学校教育課長

資料に沿って説明

○教育長

ただいま、事務局より説明がありましたが、このことについて、ご質問がありましたらお願いします。

○三浦委員

3歳と満3歳で何か変わってくるものはありますか。

○学校教育課長

国の条文が満3歳となっていることから、それに合わせての改正です。

○三浦委員

4月1日時点での3歳か、それ以降の3歳のことか、厳格化しているのかと思ったのですが。

○小玉委員

若美幼稚園では3歳の誕生日になると入園できるので、その表記のことと思います。

○教育長

それでは、議案第13号は承認としてよろしいでしょうか。

○委員

はい

○教育長

議案第13号については承認されました。

続きまして報告にはいります。最初に(1)令和元年9月市議会定例会の一般質問等についてであります。

○教育次長

資料に沿って説明。

○教育長

ただいま、事務局から9月市議会での内容等について説明がありましたが、このことについてご質問はありませんか。

○吉田委員

給食費の無償化ですが、県内で無償化しているのは2自治体あるとのことですが、どちらで実施しているのか教えていただきたいです。

○教育長

これは、八郎潟町と東成瀬村の2自治体です。

○吉田委員

わかりました。

○教育長

ほかにご質問ありませんか。

ないようですので、次に（2）男鹿市小中学校の在り方を考える協議会についてであります。それでは事務局から説明をお願いします。

○学校教育課長

資料に沿って説明

○教育長

ただいま事務局から説明がありましたが、小中学校の在り方を考える会の報告について、ご質問はありませんか。

○小玉委員

この前に頂いた資料を見れば出生数が減っていくことは明確で、これからもあまり増えることはないだろうと確かに予想されますが、資料の意見にあるように地域から学校をなくさないよう頑張ってもらいたい。今までも移住促進などやってきているが、減る前提の学校の在り方を考える会になっているのが個人的に非常に残念、この後増える予想がないのかなど。12月23日で5回の会議終了とのことですが、どんな形で保護者など、誰に向けて情報公開していくのか教えていただけたらと思います。

○学校教育課長

協議会からいただく意見書については、基本的にはホームページでの公表になると思っています。ホームページで公表し、それに対して一定期間で意見をいただくようなかたちです。また年末年始、新年会的なものが各地域でありますので、このような形で意見を募集しているということを伝えながらということ想定しています。

○小玉委員

具体的に学校の保護者とかではなく、一般の方、市民の中に保護者が含まれるかたちで意見を出してもらおうということでしょうか。

○学校教育課長

それは意見書に対する感想、意見で、具体的な統合の案は提言をふまえて、地域の方々、保護者の意見、場合によっては幼稚園、就学前の保護者の意見を伺うなどして、来年度考えていくということになりますので、意見書に対しての意見を募集するということになります。

○小玉委員

わかりました。

○教育長

次に報告（3）男鹿市立小・中学校のいじめの認知状況についてであります。事務局から説明をお願いします。

○学校教育課長

資料に沿って説明。

○教育長

ただいま事務局から説明がありましたが、いじめ、不登校のことについて、ご質問がありましたらお願いします。

○三浦委員

前は船一小が結構多い感じであったが、期間で見ると今回は落ち着いてきたという見方でよろしいのでしょうか。

○学校教育課長

報告の数字はこのとおりであります。感覚的なところではありますが、4月5月頃より若干落ち着いてきたかなという感覚があります。数字的に見ても学校でしっかり対応して上がってきています。以前よりは落ち着いてきた感じはあります。

○安田委員

いじめということばというか、表現について難しい。どこまでがいじめで、そのラインか。数字にするのは難しい。学校では軽い言葉で言っている本人は何気ないが、受ける方は傷つく。受けた方の意見がずれて、はたから見て、いじめと決めつけることは非常に難しい。慎重にカウントしていかなければならないと思います。十分わかっているとは思いますが、そこらへんが難しい。

○教育長

おっしゃるように、いじめの定義は多岐にわたっています。いじめを受けた側がいじめと感じれば、精神的な、肉体的な苦痛を感じれば、いじめととらえられる。そういうものを学校が報告する。また、そういうものを学校で聞き取りしたりして吸い上げている。件数が多いというのは、そういうものに先生たちが吸い上げたり、寄り添ったりしながら、報告だけでなく対応もしているもの、それで軽度になっているもの、調べていったら複雑なものなどが数値に表れてきています。

○安田委員

学校内で先生が生徒に、自分に対していじめたことにいじめた子にダメだよというだけの感じで0になっていることが考えられる。学校ではなくて、帰ってから、普通に遊んだりしている、学校では見えないこと、状態もある。いじめた子、いじめられた子、偏らないような見方をしてやらないと、一方的に決めつけると、その子に原因がある場合もあり、なぜ私だけ怒られるとなることもある。

学校では見えないこと、偏らない見方をしていかなければ、おかしくこじれていくことがあると思います。そこは注意していかなければならない。我々も学校だけではなく、社会でも考えていかなければならない。

○三浦委員

今回報告にあがっているものは、どこで行われたものか、調べておかなければ、まずいのかなと思います。例えば学校で認識されたものか、通学登校途中のものか、そういったものを見きわめて対処していかなければ、難しいのかもしれない。

小学校ではこの中で報告されているいじめは、例えば学校の中の休み時間のもの

か、どの範囲のものなのでしょうか。

○学校教育課長

この数字の報告のほかに、これは内容の報告が必要と思うものは、別に報告がきています。今回報告の中にあるものの細かいことは委員の方には提示しておりませんが、学校の方では、誰が、何処で、何が起きたのか、内容を全て把握しています。誰が何処で何をしたか、されたか、報告の内容すべては確かに言えませんが、1番多いのは校内での生活の中でのことです。子どもたちから出るのは、登下校の時のこと放課後も含めて、全てにおいて、あったら教えてくださいと学校ではやっています。

○吉田委員

この集計を採るにあたって、アンケート用紙を配って、生徒に書かせたものを学校で集めていると思いますが、アンケート用紙は学校が個々に作ったものか、教育委員会で項目を決めて生徒に答えてもらったものなのでしょうか。

いじめの認知数が南中、潟西、北中の0が気になる。生徒から担任が集めて、それを校長先生に上げて、それが教育委員会にとふるいにかかっているか、全部は上がってこない気がする。きっと子どもたちの生の声や困っていることなど書いていると思う。生徒がアンケートにどう書いたのか、こっちの方まで真直ぐに来るようなアンケート調査を年に1回でもやれないものかなと思います。

子どもの人数も少なくなっている。子どもたちの実際の声を聞いて、細やかな対応ができたらいいなと思います。

○学校教育課長

6月、9月、12月、3月と市教育委員会へ各校の状況の報告をしてもらっています。これは様式が決まっています。

この3か月の期間で学校でどのように把握しようとしているかはアンケートだけでなく、6月の報告が終わって9月の報告のためにアンケートをやって報告するのではなくて、その期間の状況をいろいろな形で把握して、報告している状況です。各校でやっているいじめの状況の把握は多岐にわたります。例えば、中学生であれば、生活ノートの毎日のコメントから拾ったり、保護者から担任への連絡、友達から担任への訴え、報告、連絡など多岐にわたります。

現時点では、学校でやっているアンケート様式を決めてというのは考えていません。学校でそういうように把握して、すぐ1とするものか、情報を得たものに対して内容を把握して認知しようとするのか、今は各校によって、ばらつきがある状況であります。また、0というところもあるわけですが、私たちも吉田委員さんの言うように大丈夫なのかなというところもありますが、まず、現時点では学校から来たものをいただいています。

○小玉委員

資料の中にスペース・イオというのがある。入所とあるが不登校の生徒が通う施設があるのか、教えていただければと思います。

○学校教育課長

スペース・イオであります。秋田市中通に明德館高校の中に設置されております。学校に行けない子どもたちがイオに定期的に通うこともできます。またパソコンでインターネットでの学習の補助をしてくれるという、いくつかの関わり方があります。県でやっているもので、募集要項もある施設であります。現在、通いたい利用したいという生徒について書類申請してイオに通学しているものです。

○小玉委員

小学生は利用できるのでしょうか。

○学校教育課長

対象は中学生です。

○教育長

そこに通っている場合、出校扱いになっています。どんな勉強をしたかを学校間で1コマごとの学習内容など連絡をとりあっています。

○教育長

報告は以上で終わります。

次に、その他についてであります。先ほどの次長の議会報告の中にもありましたが、事務局から船越小学校の灯油減少についてお願いします。

○学校教育課長

資料に沿って説明

○教育長

深刻なことで、量が多く調査しながらの対応で、自然に配管が老朽化して漏れたものか、あるいは盗難という両方の面から関係機関と連絡を取りながら、この後の対応をしていかなければならないが、子どもたちが生活している場所での問題で非常に重篤なことだと捉えております。

○小玉委員

盗難が可能な造りになっているのでしょうか。

○教育長

柵の中にマンホールがあり、鍵もあります。なかなか一般の方が吸い取るのはできない。専門の知識のある方で、しかもそういう道具のある方でないと難しい。量が多いので盗難の線も拭いきれない。そういうことで両面から調べております。

○小玉委員

わかりました。

○教育長

量を測定するのは設備等で毎日チェックすることが難しいようであります。今は1週間に1回くらい定期的にこまめに測定してもらっております。

○教育長

事務局からは以上ですが、そのほかに委員の皆様から、ご意見、話題がありましたらお願いします。

## ○吉田委員

最近、英語のことについて話し合われることが多いのですが、中学生の海外研修が男鹿ではなくなり、潟上とか市が7割負担で保護者が3割負担などで行っている。前に小学校の子どもで船一小に集まって、ALTの先生方、国際教養大の学生の方が来て、英語を1日教えてくれるというのをやっていたが予算がなくなって、英語に力を入れていくとして夏休みにやった事業は、大会などと重なり参加する人数が少ないとなくなりました。

それで今ある事業に英語教育を取り入れることはできないか。小学生で1泊2日の宿泊研修をしたときなどに国際教養大の方、英語の先生などで、英語を極力話す、英語の授業をするというのはどうなのかなと考えるようになりました。

英語が大事というが、時間がとれない、予算がつかない、何も手を差し延べなければ、男鹿では英語の塾もたくさんあるわけではなく、みんなが通えるわけではない。学校行事、授業に組み込むのはどうかなと考えてみました。

## ○学校教育課長

貴重なご意見ありがとうございます。

小学校の方では、今、国際教養大の方が学校に来て交流事業をするのは、希望する学校はやっています。今年であれば船一、船越、北陽小学校が年1回ですが、実施しています。これは市の方で国際教養大の学生の移動の足を確保しなければならない。そこは今何とかカバーできている。学校の方でやりたいという希望があれば、何とか対応するようにしています。

中学校の方は、国際教養大というのではないですが、学校が希望するのであれば、ALTの方々のネットワークがありまして、潟上のALTの先生など含めて学校で何かするというのであればできますので、学校の方でやる形になります。

冬休みに小中学生に声かけをして、20名位で国際教養大の訪問を実施予定でこれから具体的に動きます。宿泊学習に体験学習を組み込むというのは1つのアイデアであるのかなと思います。状況に応じて組み込むのがベストかベターか学校の方でも考えていかなければならない。

## ○教育長

補足しますが、中学校でもインターナショナルデーと、県内で近隣のALTの先生方を集めて、南中であれば10名位の先生を集めて、半日英語に親しむ日、国の紹介の授業などいろいろな機会を設けています。東中でも学校の行事で活用しています。

## ○小玉委員

9月14日に池坊の生け花の華展があり、祝賀会がキャッスルホテルで開催され、アトラクションとして北中のなまはげ太鼓の披露がありました。銅鑼が鳴り、いきなりなまはげが入ってきて、みんな高校生と思って見ていたのが、1曲終わり中学生と紹介されたら、会場がどよめいて、すごい反応でした。みんな食い入るように見つめて、また解説の女子生徒が300人くらいいる中で、しっかり喋れていた。感動しました。全校生徒が少ない学校でもできることをみんなに知ってもらえたので、報告します。

○安田委員

春に1年生が入学して、新入生メンバーがなまはげ太鼓クラブに入ってもらって、合わせるのが大変だった話を聞いた。4月に決まったので、夏休み毎日練習したと聞きました。

○教育長

4月に教育委員会にもお願いがあつて、それから中学校に相談してもらいました。

○小玉委員

大変感謝しておりました。

○教育長

いいお話をありがとうございます。ほかにありませんか。

○委 員

な し。

○教育長

以上をもちまして、令和元年第3回教育委員会会議を閉会いたします。  
ありがとうございました。

**【午前11時15分閉会】**